



いのち

平成 27 年 5 月 14 日 第 48 号
日立市高鈴町 1 丁目 4 番 10 号
日立メディカルセンター看護専門学校

「看護専門学校」の運営状況

学校長 小澤 興

日立メディカルセンター看護専門学校後援会の皆様におかれましては、日頃より看護教育および臨地実習等で大変お世話になり、感謝申し上げます。

東日本大震災および福島第一原発事故から 4 年以上が経過しました。当看護専門学校も被害を受けましたが、現在は通常の教育体制となっております。被災地におきましては、まだまだ復興・復旧には程遠く思われ、心が痛む思いでございます。

さて、当看護専門学校は専修学校の認可を受け、本年度は 8 年目に入りますが、平成 27 年度までの 5 年間の運営状況について報告させていただきます。

(1) 看護学科

昭和 48 年日立メディカルセンター看護学院開校以来 42 年が経過し、平成 26 年度は第 40 回生 31 名が卒業して、合計 1,474 名の卒業生を送り出しております。臨地実習は日立製作所日立総合病院、日立製作所多賀総合病院、大原神経科病院、県北医療センター高萩協同病院、茨城キリスト教大学附属聖児幼稚園等の協力により実施することができました。看護師国家試験は、最近 5 年間につきましては、平成 22 年度卒業生 35 名中 35 名合格、平成 23 年度卒業生 37 名中 37 名合格と、この 2 年間は特筆すべき合格率でありましたが、平成 24 年度卒業生 27 名中 24 名が合格で、全国平均と同じでした。平成 25 年度は卒業生 39 名中 32 名合格、平成 26 年度は卒業生 31 名中 28 名合格と、2 年間続けて合格率が全国平均を下回り、申し訳なく思っており、今後国家試験対策を充分にして行く予定であります。

(2) 准看護学科

昭和 45 年日立メディカルセンター附属准看護学院開校以来 45 年が経過し、平成 26 年度は、第 44 回生 41 名が卒業して、合計 1,982 名の卒業生を送り出しております。臨地実習は、日立製作所多賀総合病院、社会医療法人ひたち医療センター、日鉦記念病院、日立梅ヶ丘病院、回春荘病院、聖麗メモリアル病院、村立東海病院等の協力により実施することができました。

准看護師資格試験は、平成 22 年度卒業生 42 名中 42 名が合格していましたが、平成 23 年度卒業生は、40 名中 39 名の合格でありました。

平成 24 年度卒業生は 41 名中 41 名、平成 25 年度卒業生 39 名中 39 名、平成 26 年度卒業生 41 名中 41 名と 3 年連続で茨城県、山形県の准看護師資格試験に全員合格いたしました。

(3) 入学試験

当看護専門学校の入学試験について報告いたします。

看護学科の平成 27 年度の入学試験は、「本校自己推薦枠」「地域特定推進枠」で受験者 35 名中 33 名、「一般入学試験」で受験者 14 名中 14 名が合格し、最終的に合計 43 名が入学しました。

准看護学科の平成 27 年度入学試験は、「指定校推薦枠」「地域特定推薦枠」で受験者 40 名中 16 名、「一般入学試験」では受験者 48 名中 28 名が合格し、最終的に合計 40 名が入学しました。

(4) 茨城県地域看護職員再就業支援事業

県北地域の看護師不足対策のため、在宅看護師の職場復帰を支援するため、「看護職再就業支援事業」を学校独自事業として平成 20 年度当看護専門学校開設時より実施し、再就業に寄与しております。

平成 26 年度は県からの委託事業として看護職員の再就業支援に取り組みました。講義研修に 13 名、地域の医療機関での技術研修を目的とした実務研修に 10 名、再就業を想定した試用研修に 6 名が参加し、2 名が再就業致しました。

以上、当看護専門学校5年間にわたる運営状況を報告させていただきました。後援会総会にあたり、後援会の皆様の看護教育ならびに臨地実習等のご支援ご協力に感謝しお礼申し上げますとともに、後援会の今後ますますの発展を祈念いたします。



入学して思うこと

准看護学科 1年

私が日立メディカルセンター看護専門学校に入学し思ったことは、勉強をすることに年齢は関係ないということです。社会人だった方や、家庭を持っている方など様々な年代の方がいらっしゃいますが、どの方も自分と同じく勉強をし、学びたいという気持ちは一緒だと感じています。また、年上の方の意見やお話は参考になり専門的な知識だけでなく、人として大切なことを学べると感じています。

そして、私にとって看護師を目指すきっかけとなったのは、高校二年生の頃に祖父が胆管癌で入院したことです。昔から我慢強く誰よりも温かい祖父でしたが、その時は初めて癌という病気にかかり、とても大きい不安を抱いていたと思います。しかし、病気に対する悩みや不安を決して私達家族に話さなかったため、今後どのようにサポートしていけばよいのか悩んでいた時、担当をしていた看護師さんが祖父の不安を少しでも取り除こうと、こまめに声かけして頂いたり、他愛もないお話に付き合ってくれ、日に日に表情が明るくなっていく祖父の姿を見れてとても嬉しかったです。また、看護師さんは毎日通っていた祖母や泊りがけでいた私や母にも気遣いの言葉や配慮をして頂き、祖父をサポートしていきこうという気持ちを強くさせてもらいました。

このような経験を通し、自分がして頂いたように患者さんだけでなくその家族の方にも安心感を与えられる看護師になりたいと思うようになりました。しかし、看護師に近づくためには、専門的な知識、技術、そして、様々な年代の方と関わるためのコミュニケーション能力が必要だと思います。そのため、今後の大きな壁や課題に負けず、日々コツコツ努力し、同じ夢を志しているクラスメイトと共に支え合って頑張っていきたい。



入学して思うこと

看護学科 1年

看護学科に入学し夜間の通学が開始しました。初日から仕事を登校に間に合うように終えることの難しさを痛感しました。先輩たちから「1年の夏休み頃までは辛いけれど慣れれば大丈夫だから頑張る。」と応援してもらっているのと「自分が望んで入学したんだ。」ということをお忘れずに学校生活を送ろうと思います。

入学式の祝辞「3つの気分転換」を聞き、学校生活と仕事の両立で大きな気分転換（旅行や長期休暇）は難しいですが、そのうちの2つ「散歩」と「歴史の本を読む」は1人でもでき手軽な気分転換方法だと思いました。散歩をし道端の草花を見て季節を感じたり、「きれいだな」と感じる心の余裕や素直さは、職場で仕事を教わる時や患者さんと接する時に必要なものであると思うので、学業と仕事の忙しさに押しつぶされそうな時は、それらを思い出して実践し「心の余裕、素直さ」を持ち続け、自分が目指す「人の心の痛みの分かる人間としての優しさ」を持つ看護師になれるように努力し、3年後に無事に卒業したいと思っています。

本日、職場での新人研修にて「医療は日々進歩しています。看護師は一生勉強の仕事です。」と聞き、改めて自分が大変な職種を選んだなと感じました。大変ですが、慣れれば一生誇りに感じられる職でもあると思うので、看護師になれるように頑張りたいです。